

沖縄観光に貢献できること

那覇市立金城中学校三年 玻座真 奈由

「今度のゴールデンウィークは、天気良さそうだね。観光客の人達も喜ぶね。」
金融機関に勤める父は、自分の事のように観光客の事をよく気にします。

「沖縄に来てくれる観光客は、年間で約八百万人以上いて、沖縄の経済に大きく貢献しているから大事にしないといけないよ。奈由も毎年、離島の石垣島に遊びに行くから、沖縄観光に貢献している一人だよ。」

父が誇らしく言いました。確かに私は、石垣島の祖父母に会いに幼稚園の頃から一人で飛行機に乗り、年に何度も石垣島へ行きます。

「県外の観光客とは違い、私は楽しくない」と父に反抗している私がそこにいました。なぜなら私は、小学生の頃までは、一人で飛行機に乗るのが楽しくて、大好きな祖父母に会える事もとても嬉しかったのですが、中学に入ると離島に行くよりも、部活や友達と遊んだりする事の方が楽しく思えて来たからです。

「石垣島には何度も行って、もう観光する所はないし、遊ぶ所も少ないから今度の休みはもう石垣島には行かないで、県外に観光に行きたい。」と言うと、父は私の目をじっと見て「観光というのは、テーマパークで遊んだり、ショッピングしたり、食事をする事だけではないよ。」と言い、黒島で民宿を約三十年間営み、去年亡くなった親戚のおじさんの話をしてくれました。

おじさんの民宿は建物も古く、美味しい食事が付くわけでもなく、おじさんが一人で営んでいました。それでも約三十年間も長く続けられたのは、おじさんの人柄を好み、リピーターやロコミのお客様がとても多かったからだそうです。営業していた三十年の間には、学生の頃に利用した人が、自分の子供や孫まで親子3代で利用する方もいたそうです。宿泊客が口をそろえてよく言っていた事が、「黒島は、きれいな海以外は観るところも遊ぶところもなく、本当に何も無い島だけど、民宿のおじさんや、島の人達の温かさがとても素晴らしくて居心地がいい」という事でした。私は、旅行先でのなにげない地域の人達とのふれあいも素晴らしい観光の魅力になるのだと気づきました。

私には、少し後悔している事があります。ある雨の日、中国人と思われる観光客が大型ショッピングセンターの通りでタクシーを拾うため小さな折りたたみ傘をさして大雨の中立っていました。赤ちゃんを抱いた奥さんらしき人は、ショッピングセンターの軒先で雨をしのぎながら旦那さんがタクシーを止めるのを待っている様子でした。でも、なかなかタクシーは捕まらず、ショッピングセンターのタクシー乗り場に行けばタクシーは待機しているのと思いながらも、声をかける事ができませんでした。

最近では外国人の観光客が増え、外国人のマナーが悪いと問題にもなっています。私がモノレールに乗るとき、外国人の観光客が並ばずに割り込むのをよく見かけます。外国語の

案内表記がもっとあれば、外国の方もマナー違反だとわかるのにと、勝手な理由をつけ、教える事や、注意をしないで見過ごしていました。日本人の優しさやマナーの良さは、世界一ともいわれています。その優しさやマナーの良さを外国人の観光客に知ってもらうことも、沖縄観光のひとつではないでしょうか。

石垣島に住む私の祖父母は、観光客が何か困っているのを見ると積極的に話しかけて手助けをし、時には、台風で飛行機が欠航し、帰れなくなった観光客の家族を家に泊めたりしたこともあります。本当におせっかいな人だと思っていましたが、この行動は観光客にとっても感謝され、かつ沖縄県民の優しさも県外へひろめていることになっていると思います。

黒島のおじさんの民宿のように、国内外の全ての観光客に、沖縄のリピーターになってもらうには、やはり地域の人達とのふれあいが大切なのではないでしょうか。マナー問題の解決策も外国人や行政のせいせず、県民が「めんそーれ」の気持ちで積極的に関わる事が沖縄の観光を盛り上げることになると思います。

私はまず、観光客にあいさつをすることから始めようと思います。観光客へのあいさつ・声かけが、沖縄観光に貢献する第一歩になると思うのです。